



風の祈り

第五章

— みんなと数珠繋ぎ —

まほろば主人
宮下周平

背景写真：稚内そよ風の会 平尾護

「突然のYouTube、 「反対署名」の呼びかけ

11月3日、まほろば感謝市に手渡された『風の祈り 第四章』を待っていたかのように、最終日の5日、突如予告もなくYouTube「和yogiチャンネル」に、「(仮称)古平・仁木・余市ウインドファーム事業」計画反対署名請願のことがupされた、との連絡が入った。フォロアー数8.5万人もある人気ヨガマスター松本和也さんの『大変なことになるっています』助けて下さい。魔の手、迫る』は大反響。3週間で4.8万回視聴、545件のコメント、そしてNet署名1か月で10,000人突破の勢いで、一方、紙面署名も2,500筆。



仁木町の風車計画が、あれよあれよという間に全国規模で知れ渡ってしまったのです。それに比し、最も要(かん)な地元(かみ)の声(こゑ)が、まだまだ追いついていない現状も、時の問題。夏の陣は外堀を、冬の陣は内堀を埋めます。農繁期で、言うも聞(ま)くも儘(まま)ならない互いの身も、これからの農閑期3、4か月が勝負です。

昨年8月、同YouTube上で、タイトル『削除されたら、さようなら』でコロナ禍での生き方が流されたところ、これも20万回視聴され、何と冊子『コロナと生きる』が7万部も全国配布されました。発送業務のため、とうとう店内運営まで支障を来(き)し、止む無く中止した経緯(けいゐ)がありました。それは、全国的な共感を呼び、異常な状況にまで追い込まれるほどの凄まじい感化力(かきり)でした。

今回は、その第2弾のウェーブ到来(きたり)ということでしょうか。これからの相当(たうとう)、引き潮(ひきしほ)、上げ潮(あげしほ)が繰返(くりか)し襲(おそ)うものと見ています。札幌(さっぽろ)小別(せべつ)沢(さわ)のまほろば自然農園(しぜんのうゑん)で、研修(けんしゆ)していた彼(かれ)が、このよう(よう)な理解(りかい)と貢献(こうけん)をしてくれるとは、予想(よそう)だにしませんでした。実に、ありがたいことです。

二、国民運動への突破

これを聞き付けた多くの知人が、この署名運動(しやうめい)に全国・全世界から参画(さんかう)してくれています。

MIT(マサチューセッツ工科大学)出身(しゆいん)の最先端(さいせん)科学者(かがくしや)・増川(ましかわ)いづみ博士(はくし)は、電子工学(でんしこうがく)、量子力学(りやうりきがく)、水の磁気共鳴研究(じききうめいけんきゆ)、流体力学(りうたいりきがく)、超(こ)低(てい)周波(しゆは)・電磁気学(でんじきがく)、生物分子学(せいぶつぶんしがく)、さらに古代史(こくたいし)等の世界的権威(けんゐ)で、現在(げんざい)「サウンドヒーリング」普及(ふく)に挺身(ていしん)されています。この音叉(おんさ)の共振(きんざん)・共鳴(きうめい)・増幅(ぞうぷ)に関(か)わる理論(りろん)と実践(じっせん)は、何(なに)とこの風車現象(かまぐるまげんじやう)と相似(しやうじ)象(さう)・共時性(きうじせい)であることに着目(ちやくもく)、そのマイン(マイ)ス面(めん)のダメージを悉(ことごと)く知り尽(つ)す



くしておられた。雲霞(うんか)の如(ごと)く建つ風車(かまぐるま)と、環境(かんげい)・人体(じんたい)に及(およ)ぶ甚大(しんたい)なる影響(えいぎやう)被害(ひがい)や、死滅(しめつ)減少(げんじゆ)に追(お)いつ追(お)いつ遣(や)られる野生動物(やせいどうぶつ)の愛護(あいご)の精神(しんせい)からも、この狂気(きやうき)の負(お)の事業(じぎやう)を国内(こく内)から一掃(いつぱう)しなくてはならないと、あらゆる方面(あつらゆるあつせん)に呼び掛(か)けて下さ(くだ)さっております。(『風車紙芝居(かまぐるましばい)』の斉藤(さいとう)武(たけ)一(いち)さんと共著(きやうしやく)出版(しゆばん)予定(よきぞい))

これまでの自然食品業界(しぜんしんぷんがいぎやう)の卸(おろ)・小売(せうばい)り関係(かんけい)、農業漁業関係(のうぎやうりやうぎやうかんけい)、自然保護(しぜんほご)団体(だんたい)、慈善財団(じつぜんざいだん)など全国(ぜんこく)に網羅(もうら)した知縁(ちゑん)の方々(かたがた)のさらなるNetwork(ネットワーク)に繋(つな)いで、拡散(かくさん)の輪(わ)が環(わ)を膨(ふ)らませて連鎖(れんさ)反応(はんのう)を繰返(くりか)し返(か)してあります。

政治的(せいじてき)にも水面下(すいめんか)、超党派(ちやうたうたい)の連携(れんけい)も見(み)せており、絡(か)む利権構造(りけんこうざう)撲滅(ぼくめつ)のためにも、国民運動(こくみんうんどう)へと進展(ていせん)する可能性(かんのうせい)を秘(ひ)めて来(き)ました。更(さら)なる皆(みな)様(さま)のご協(きやう)力(りき)をお願(ごん)い致(いた)しま

三、全道シンポジウムの実態

風車(かまぐるま)反対運動(はんたいうんどう)を始めてから5(ご)か月(げつ)。狭(せま)い仁木町(にきまち)しか分(わ)からず、他(た)の地域(ちいき)の現状(げんじやう)は全く無知(むち)同然(どうぜん)。農繁(のうはん)期(き)も手伝(てでん)って、周辺(しゆべん)のことを熟(こな)すだけで、精(せい)一杯(いぱい)であった。

そんな中(なか)、風車問題(かまぐるま問題)の全道シンポジウム(ぜんどうしんぽじうむ)があることを聞(き)かされ、即(す)参加(さんか)。その熱気(ねつき)を帯(た)びた会場(かいじやう)には圧倒(あつたう)され、皆(みな)さんの真剣(まけん)な取(と)り組み(くみ)には、「井(い)の中の蛙(かま)」。我が身(み)を思(おも)わずにはいられなかつた。

そして、そのタイトル「再エネ植民地(さいえねしょくみんち)に目(め)が釘(くわ)付け(つ)けになつた。正(ただ)に、ふるさと北海道(ほくかいだう)が、外資(がいし)により植民地(しょくみんち)化(か)されている。その現(げん)実(じ)に目を背(そむ)けてはいけ(け)ないのだ。外(あ)に目を向(む)けて、多(おほ)くの仲間(なかま)を知(し)り、改めて(あらため)て我が街(まち)の風車(かまぐるま)問題(もんだい)が、国家的(こくたいてき)の大問題(だいもんだい)でもあることを強(こゝろ)く認識(にんしき)するだ(た)らう。

そんな状況(じやうきやう)を「北海道風力発電(ほくかいだうふうりくはつでん)問題(もんだい)ネットワーク」の佐々木(ささき)邦夫(はなと)夫(と)が

風の 新の り



「風力発電の真実を知る会」佐々木邦夫代表 提供

3,000 wind turbines in Hokkaido?

**シンポジウム
「私たちの北海道を
"再エネ植民地"に
させないために」**

～大規模風力発電「3,000基設計画」の衝撃～

2022年11月23日(水・祝)
13:20～16:40(開場:13:00)
札幌エルプラザ4階大研修室
資料代:500円

共催:北海道風力発電問題ネットワーク
一般社団法人 北海道自然保護協会
後援:全国再エネ問題連絡会 公益財団法人日本野鳥の会札幌支部 石狩湾上風車建設反対連絡会

代表が、最も的確に報告されているので、ここに紹介します。

●11月23日(水・祝) 北海道風力発電問題ネットワーク・(一社)北海道自然保護協会の共催により、シンポジウム「私たちの北海道を"再エネ植民地"にさせないために」〜大規模風力発電「3,000基設計画」の衝撃〜を、札幌エルプラザ大研修室にて開催いたしました。当日は13時の開場前から長蛇の列ができ、定員90名の会場をオ

バーするほどで、ZoomにおいてはMaxで80名の方にご参加いただきました。(定員を超えたためお帰りになられた方にはお詫び申し上げます)

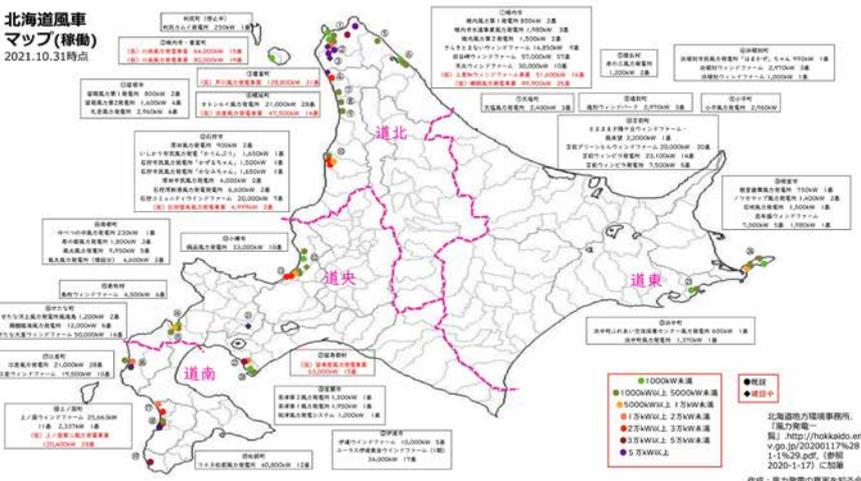
またマスコミ各社より取材やテレビカメラが入り、北海道に風力発電が集中することに皆さんが強い関心を寄せていることを強く実感しました。

主催者挨拶で開催趣旨を話した後、現在計画(宗谷・常呂については建設中)が進められている道内各地、「宗谷」「豊富」「石狩」「当別」「小樽」「北見市常呂」「伊達市大滝」の市民団体より報告を行いました。その後、専門家による解説・問題提起を頂きました。

NACS・J(日本自然保護協会)の若松先生より「全国アクセスデータからの陸上風力発電計画による自然環境への影響」について、北大の田鎖先生より「風車騒音による県境影響について」、東京農大の白木先生より「バードストライクなど野鳥に関すること」について、様々な問題について伺うことができました。

今回のシンポジウムは、より多くの方に「風力発電の問題点」や「北海道で何が起きているのか」を知っていただくことを目的に開催しました。

立地地域の方などにとっては物足りなさ(反対集会ではない)を感じられたかもしれませんが、参



風力発電問題を語る

札幌で専門家ら「環境、健康に影響」



風力発電施設の問題点が報告されたシンポジウム（23日、札幌市で）

風力発電施設が自然環境や人間の健康にもたらす影響を考えるシンポジウムが23日、札幌市で開かれた。国の天然記念物オジロワシ

が施設に衝突する事故は道内を中心に70件を超えており、専門家らが問題点を指摘した。

今年6月に結成された市

加された方の中には「どのような問題があるかを知りたかった」、「立地地域になるとどのようなことが起きるのか」、「反対集会であれば来なかった」、「実際に話を聞くことでよく理解できた」などの意見、また「コメントなどあまりにも強い口調にひいてしまった」などのご感想を直で聴くことができました。

「負の側面」があまりにも多い風力発電計画に反対することにについては、立地地域（計画だけで500基以上）で長年生活してきた私自身、強く理解するものですが、その一方で、より多くの方々にこの問題を理解していただくと言うことについても重要な課題と考えております。

今回のシンポジウムにおいて反

民団体「北海道風力発電問題ネットワーク」が主催。日本自然保護協会（東京）の若松伸彦・保護チーム室長は、山奥で大規模な施設が計画されていると指摘。環境への配慮がない施設は「見せかけの環境対策だ」と批判した。

猛禽類を研究する東京農大の白木彩子准教授は、オジロワシなど多くの野鳥の衝突事故を報告し、「発見されるのは偶然で氷山の一角」と話した。

北海道大学の田鎖順太助教は、風車の騒音の事例を紹介。「健康リスクの評価が行われていない」と国の政策の問題点を指摘した。



省点や次回への課題は少なくありませんが、想像をはるかに超える参加者の皆様に感謝申し上げますと共に、企画立案から当日の準備に至るまで携わっていただいた皆様、唯一記事にしてくださいました読売新聞さんに感謝を申し上げます。

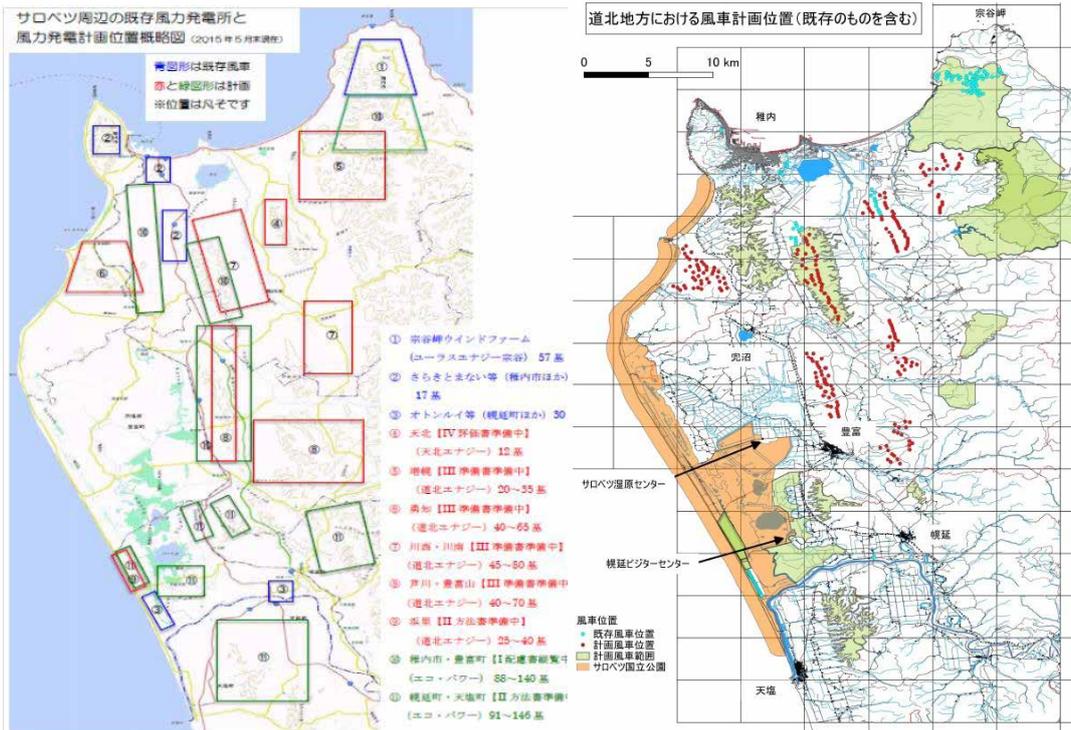


改めて、余市から札幌への高速道路からも窺い知る石狩湾沿いの屹立した風車群。既に合計9社が、8000〜2万kWの洋上巨大風車を数十〜数百基申請、計画書を総計するとなんと最大1178基が建つという。まさに風車の森林。異常である。その地元の方々の現

風の 新の リ

状は、想像を絶するほどの悲痛な叫びにも似る。
我々は、未知の立場。想像の訴えでしかない。
しかし、全道に広がる風車と共に暮らさざるを得ない人達にとっては、闘争の毎日でもある。そんな日が来るか、来ないか。今の頑張りでしかない。その切実な訴えは、各会のチラシを見て頂ければ、一目瞭然なのだ。他人ごとではない。この訴え、この叫び、この声々が日本中、世界中に届けとばかりに拡げたいと思います。各会のご尽力に敬意を込め、公開して共有させて戴きます。皆さまも事の深刻さを認識されて、コピーして拡散してください。この被害は一地域に留まりません。殊に、札幌周辺地域は、石狩湾の気象変動に大きく作用されています。当然これだけの数の風車が稼働すると、健康被害を受けざるを得ない。各々の地域が孤立せずに、連帯連立して、力を携えて前進しなければなら

りません。頑張りましょう。
(巻末9頁より添付しております)



四、稚内、平尾さんの新著

10月の仁木学習会で、半ば飛び込みで

道北の風車現状を皆さんに報告した



「稚内そよ風の会」代表の平尾護さん。早速話を纏めて上梓したのが『私たちのまちに風車はいらない』。その凄まじい風車の林立は目を疑うばかりだ。宗谷管内(宗谷総合振興局管内)では、稼働中118基、工事中124基、アクセス中512基の

「稚内そよ風の会」代表の平尾護さん。早速話を纏めて上梓したのが『私たちのまちに風車はいらない』。その凄まじい風車の林立は目を疑うばかりだ。宗谷管内(宗谷総合振興局管内)では、稼働中118基、工事中124基、アクセス中512基の

異常さはたどえようもない。この話も文も、生まれて初めてとは到底思えない完成度です。まほろばで無料頒布中。稚内では3000冊、配布されるとのこと。再版に次ぐ再版で、多くの方々が覚醒されて、この反対運動に参画されんことを。
中露からの国防の要塞でもある日本最北地。風車によってリーダー基地の使命が、機能不全の状況を露呈しています。これは日本の未曾有の危機であります。一日も早く、北の大地を、道民の手に取り戻せねば。

五、山田征さんの思想

たった2円の賦課金納入を拒否したため、送電を止められたお婆

稚内そよ風の会：平尾 護
morelifehirao@gmail.com



11月21日(月) 山の手、浄国寺にて

「今まで出版された9冊のシリーズの本の内容は、多岐にわたりますので一言で言い表すことが出来ませんが、一般的には善は神、悪は悪魔に所属する、といった二元的な捉え方ではありません。

善も悪もそれは同じ神、あるいは宇宙意識の側面であり、人として生きる人間の魂の成長にとって、悪という存在はなくてはならない非常に大切に重要な物であるということ。ことをさまざまな角度から表現を変え、解き明かしていると思えます。

そして、今一つ大切なことは、生長のために、人は幾度となく繰り返される輪廻転生という壮大なシステムがあるということです。

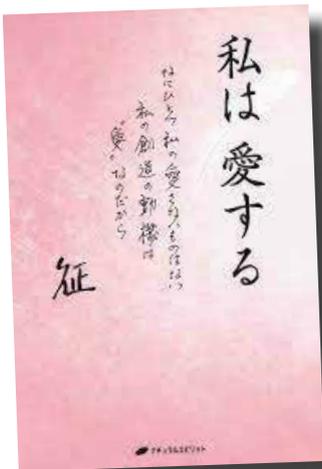
つまり、人は死んだらおしまい、ということではなく、その人が何を目的としてその人生を生きるのか、あるいは選んだのか、そしてその目的は全うされたのかどうか。度重なる人生にとって、悪というものはなくてはならない大変重要な素材であるということです。そしてさらに大切なことは完璧極まりなく作り上げられています自然界、いわゆる生態系というものに対し、人はどう向き合っているのか?.....」

元より、一元論者なる私は、頭を打たれるような衝撃的な正見だった。陰陽両儀、善悪一体の神の顕現である。してみると、風車もコロナもワクチンも神の顕現。事業者も、政府も、C国も、神さまか!

そんな馬鹿な!と思えそうだが、立ち止まって見ると、この宇宙は二手に分かれている訳ではなく、一体として絡みながら、整然たる運行で、超然として止むところがない。一步も十歩も引いて観ると、賛成も反対も同根で、人の素性は

さんがいる、という噂を聞いてはいたが、お会いしたことがなかった。その方、「自然再生エネルギー」に詳しい山田征さんという。電気のない生活!? 現代では想像し難く、それこそ自給の暮らし、昔ぶりを実践されているとは!

金銭の多寡でない。少しの不正も許さず、信念を曲げぬその本気度は、けっして上滑りでない。山田さんが、札幌にいらっしやるとの報せ。忙殺される中、札幌へ向かった。その主催者のチラシにこう書かれていた。



風の 新の リ

に居た。ただ感謝である。

みな同じだ。それぞれを演じて、互いに魂を切磋琢磨している。そこに壮大な輪廻転生という宇宙システムに組み込まれて進行しているだけだった。こういう激動の時代にこそ相応しい魂が、風車という悪の象徴を砕いて、良き世に導かれるか、試されている。

それは、憎しみでなく、慈しみの心をもって対する。賛成の人も推進の側も、一様に仁愛の心を抱いて磨けるかという試しを、神さまから学ばされている訳だ。

そう聞けば、確かに心が楽になる、平らかになる。何か急に希望が見えて来る気がして嬉しい、不思議だ。そうだ、そういう気持ちで、風車反対運動の心としなければ、いい方向には解決しないのだろう。

敵と見ない、味方・仲間として引き入れて観る。それが、神さまのご意思なのだろう。さらに愛の高みを、深みを、神さまは望んでいらつしやる。

なにか、ホッとする自分がそこ

六、宮嶋さんのチーズ作りからの智慧

先日、ニセコの帰り、寄りますとの電話があり、それなら一泊してゆっくり仲間と話聞かせて上げて、ということになり、久方ぶりに奥様と来られた。



まほろば創業時からの付き合いだから40年にも喃喃なんなんとしている。2004年スイスで開催された「山のチーズ・オリンピック」でグランプリを獲得したニュースは、日本中を沸かせた。そして、チーズの取り扱いは無論、まほろばオリジナルチーズ「ti-tie(チツチ)」製造への道は、いつも宮嶋さんと共にあった。ヨーロッパへのAOC(原産地呼称統制)研修やユベール会長との対面や様々な事々は、彼のご縁であったことだ。それのみならず、歴史のこと、炭埋のこと、新月の木のこと、電気のことなど、教わるばかりだ。そんな日本チーズ界のオーソリテイとしての発酵への見識は、超



フランス・アルザス地方にあるモラン氏の工房にて

仏チーズ AOC 協会元会長ヒュベール氏

一流であることは論を俟たない。チーズと言えどワインはつきものだが、どれほど欧米のワインに接して来たかも計り知れないほど蓄たくわがあり、見識も高い。

発酵醸造の原理としては、同じ微生物相手なのだ。

その微生物環境の良さがワインのそれと一致する。場作り、環境整備が、何よりもワイナリー造成・管理の第一歩。その場とは何かを、とことん語り尽くして頂こうと企画した。

その彼が、満を持して、初めてワイナリーの群居する余市・仁木で講演する。

1月21日(土) 9時から町民センター(交流ホール)で、「食と発酵と環境」のタイトル。サイン会もある。

七、星澤幸子さんの講演「自分を愛する生き方」

3月11日(土) 1時から、仁木町民センター(大ホール)で、あの「どさんこワイド」の『どさんこキッチン』でお馴染みの料理研究家・星澤幸子さんが、食と生き方についてのお話をされます。



人気番組 STV『どさんこキッチン』出演 7,600 回にのぼる



南富良野「ほしざわや故郷店」で支度をする星澤幸子さん

富良野の農家生
まれて、根っから
道産子。芯から私
たちと同じ食べも
の芋玉で、育って
きた年代です。お
じちゃん・おば
ちゃんに好かれる
庶民性は飾らな
い、誇らない、気
さくで人情味厚く、しかも親分肌
の姉御肌。とっても頼りになる人
生の大先輩です。



仁木の豊かな食材、豊富な果物
やお米、野菜などどファンダンに
用いた料理を、どう生かせばよい
のか。ギネスブックの世界記録を
誇る料理 TV 出演回数。

その途方もない場数に裏打ちさ
れた料理の腕は、臨機応変、自在
即妙、素材の見事な変身振りど、
レシピ提供の無尽蔵さは、

「料理の神様とご一緒している！」
と、確信するばかりです。

当日のお話は「自分を愛する生
き方」。たまには堅い話ばかりでは
なく、ホッとひと息付きたいもの
です。ご本のサイン会もあります。



Twitter: @huuhatsu

風力発電の真実を知る会

検索



HPへアクセス!

消費者が知らない
再生可能エネルギーの真実

風力発電の 真実を知る会

あなたは
知って
いますか?

生態系の破壊

渡り鳥の営巣地が奪われ、絶滅危惧種の鳥がバードストライクで死んでいます。

再エネ賦課金

消費者は電気料金から自動的に1kWhあたり3.45円の賦課金を負担させられています。

2022年度賦課金単価

健康被害

周辺住民に頭痛・不眠・めまいなどの心身の不調が表れています。

ゴミ

老朽化や故障で使用されなくなれば、鉄と油とプラスチックのゴミです。処分に莫大な費用が掛かります。

危険性の 周知不足

実証実験施設の爆発や、ブレードの落下事故・火災が多発しています。

風力発電にはあなたが負担した電気代が使用されています。

決して無関係ではありません。

周知されない実情を知るために、勉強会・講演活動を行っています。

事実を是非知ってください…



串崎風力発電所火災:佐賀県唐津市、大田潤士さん撮影
朝日新聞社提供-2017年



浜中町オジロワシ事故
【撮影】高田令子



昆布盛オジロワシ事故
【撮影】渡辺義昭

再生可能エネルギーとは

再生可能エネルギーとは、太陽光や風力、地熱といった地球資源など自然界に存在するエネルギーを利用して作られるエネルギーを指します。日本では、2009年8月に法律が施行され、定義と具体的な種類が規定されています。太陽光や風など自然の力を利用するため、安定供給に結び付きにくいエネルギーです。全国でどのくらい発電を行っているのか、データは公表されていません。

クリーンなエネルギー？

風車は強化プラスチック・鉄などでできた工業製品。製造過程で膨大な石油資源を浪費します。法定耐用年数は17年で、寿命がくると「産業廃棄物」として処分され、莫大な費用がかかります。不安定であるために、常に化石エネルギーによる発電でアイドリングしてバックアップしています。風の力だけで安定した発電ができるわけではありません。

風力発電の健康影響の恐れ

頭痛や不眠・めまいなどの健康被害が、全国各地で報告されています。風力発電が停止したり、風車から離れると症状が改善される事例もあります。環境省は「風力発電施設から発生する超低周波音・低周波音と健康影響について、現段階において明らかな関連は確認できない」として認めていません。

発電量と買取制度・電気代の負担

毎月の電気料金の中で支払っている“再生可能エネルギー賦課金”をご存知ですか？電力会社が固定価格で一定期間買い取る費用を、電気の利用者が支払っています。2021年度において、電気利用者は約3.8兆円の賦課金を払っています。（賦課金総額）

事故・火災

絶滅危惧種のオジロワシや野鳥・コウモリが風車にぶつかって、多数死んでいます。火災が発生しても、はしご車が届かず、焼け落ちるのを待つことしかできません。落雷や故障により、羽が落ちたり、バラバラになり破片が遠くまで飛散します。

活動資金のご寄付を募っております。下記の口座までご支援をお願い申し上げます。
北海道銀行 稚内支店 普通預金 口座番号：0733792

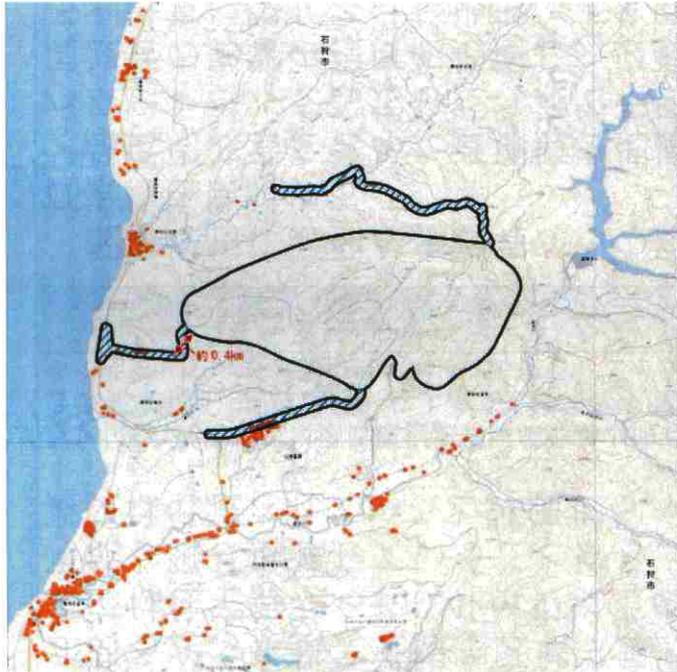
あなたも身近なエネルギーについて正しい知識を身につけませんか？
info@winpow-comaga.kilo.jp へお問い合わせください→



石狩市厚田区古潭・嶺泊での風力発電事業

【計画の概要】

事業実施想定区域は751haで、ほとんどが農業用地(広大な麦畑や牧草地)。丘陵地からの景観はすばらしく、別荘地が周辺に点在している。このような地域に単機出力4,300~6,100kW、最大15基、最大出力91,500kW、高さ180m(札幌テレビ塔は147m)の風車が15基も建設されます。



- 事業実施想定区域
- ▨ 事業実施想定区域 (風力発電機の設置対象外)
- 住宅等

図1. 事業実施想定区域(住民説明会資料より引用)



図2. 15基の風車から拡がる風車騒音の様子

北海道大学大学院工学研究院環境工学部門地域環境研究室が開発した「風力発電による健康リスク簡易予測システム」により作成。

- 1割の人が安眠できなくなる低周波音(80Hz、41dB)は10kmの範囲まで届きます！！
- ・青点線40.5dB は、環境省による全国疫学調査で不眠症のリスクが上昇した域値を示しています。この域値より高い騒音のエリアには約120人が居住。不眠症になるリスクが高い。
- ・赤点線35dBは、静かな地域では風車騒音はこの値を超えないように求められています(環境省指針値)。
- ・風車から4km 余りの範囲は、35dBを超えており、ここに約330人が居住しています。

懸念される種々の問題点

(1) 周辺住民への健康影響が大きい。 事業想定区域からの最寄り住宅まで約400m。「望来豚」のノースベストファームまで1 km。2 kmの範囲に155戸が居住。北大の健康リスク予想簡易システムによると、不眠リスクが高いエリア(風車から約3km)に120人が居住、1割以上の人々が人眠時に音が気になるエリア(風車から約10km)に、厚田本町を含む1,300人が居住していると予測された。厚田区の人口は約1,700人なので80%の住民の生活の質の低下が心配される。厚田市民風力発電所と厚田風力発電所との風車騒音や低周波音の累積的影響、さらに現在建設計画が進んでいる厚田区南部49基による累積的影響も無視できず、人および豚への健康影響のリスクはさらに高まる。

(2) 景観破壊 厚田区は海岸段丘が発達しており、丘の街として、海と山、そして丘の上に広がる田園風景が多くの人々の心をとらえ、この景観を求めて移住し、夏の間を別荘で過ごす人々が多い。「望来ビュー」は坂の上から見下ろす厚田の海と丘のダイナミックな景観で、誰もが心奪われる景観である。風車は「望来ビュー」の丘の上に建設されるが、果たして受け入れられるか。180mを超える風車は、「嶺泊展望パーキング」から垂直視野角約5.9度、「戸田記念墓地公園」から約4.3度と大きく見える。周辺住民の生活景観となる「古潭地区」は700mの離隔のため約14.2度、「望来地区 a」は約9.6度と、これは受忍限度を超えていると考えられる。別荘利用者の理解を得るのも難しいと思われる。

(3) 調査空白地帯 計画地の一部はほとんどが「石狩市風力発電ゾーニング計画」(2019年)の「環境保全エリア」に指定されている。農業地域であるため「農用地区域」が環境保全エリアとなる。地域森林計画対象民有林も所々分布しており、ここは調整エリアとなっている。

問い合わせ先:「石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会」 windturbine@lbcc-alumni.jp

●石狩湾新港洋上風力発電事業

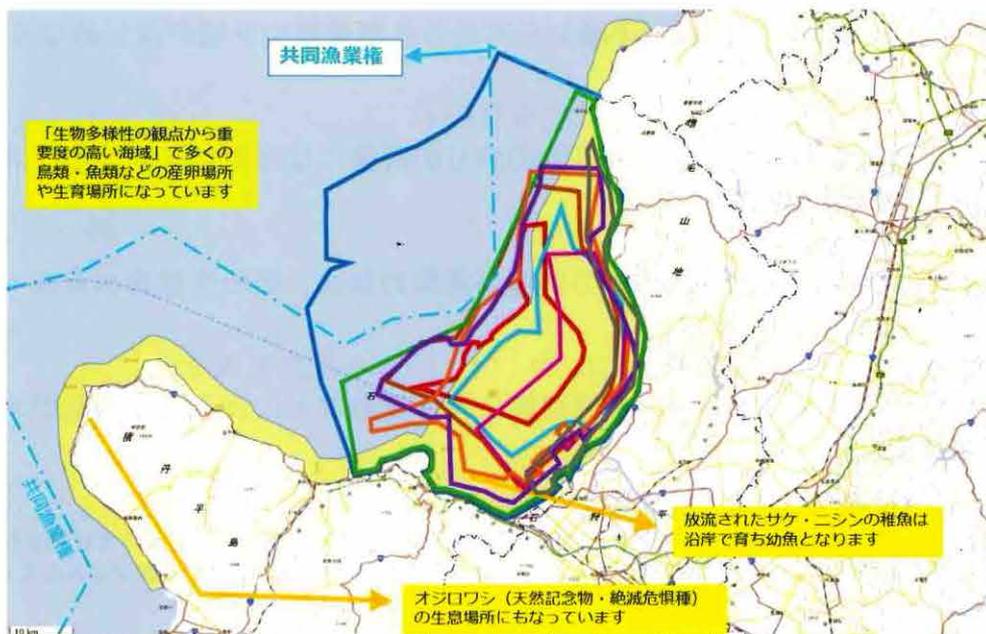
合同会社グリーンパワー石狩が海岸からわずか2km~3kmに、高さ200mの8,000kW超巨大風車14基の建設を**住民に十分説明を行わないまま強行している**。陸域の工業団地内や周辺ではすでに3,000kW級の大型風車が19基も稼働。これらとの累積影響は評価されていない。稼働後の騒音測定計画もなく大問題！



●石狩湾一般海域の発電事業

石狩湾のほぼ半分が着床式洋上風車に適した浅い海域であるため、合計9社が超巨大風車による大規模発電計画を進めている。現在、石狩市は石狩湾漁業協同組合の合意を得て、石狩市沖海域(離岸2.5~5km、延長約65km)で洋上風車建設を希望する旨の情報を北海道経由で国に提出、有望区域選定を目指している。有望区域になると、国が協議会を設置、促進区域化のための検討が行われる。石狩市沖が国の促進区域に指定されると、公募で事業者が決定され、**30年間、一般海域の占有が許されてしまう**。

石狩湾の洋上風力発電計画(一般海域)



- ① (仮称) 北海道石狩湾沖洋上風力発電事業 8,000-12,000kW 100万kW 最大125基 コスモエコパワー株式会社
- ② (仮称) 石狩湾洋上風力発電事業 5,000-15,000kW 100万kW 最大200基 シーアイ北海道合同会社
- ③ (仮称) 石狩・厚田洋上風力発電事業 9,500-12,000kW 133万kW 最大140基 石狩湾洋上風力発電合同会社
- ④ (仮称) 石狩湾沖洋上風力発電所建設計画 8,000-14,000kW 52万kW 最大65基 株式会社JERA
- ⑤ (仮称) 石狩湾オフショアウインドファーム 9,500-14,000kW 100万kW 最大105基 ジャパンリニューアブルエナジー株式会社
- ⑥ (仮称) 石狩湾沖洋上風力発電事業 12,000-15,000kW 96万kW 64-80基 株式会社グリーンパワーインベストメント
- ⑦ (仮称) 北海道石狩湾洋上風力発電事業 9,500-14,000kW 100万kW 71-105基 丸紅株式会社
- ⑧ (仮称) 石狩湾洋上風力発電所 12,000kW 300万kW 最大250基 日本風力開発株式会社
- ⑨ (仮称) 石狩市沿岸洋上風力発電事業 9,500-20,000kW 103.2万kW 最大108基 石狩湾洋上風力発電合同会社

出典: 「生物多様性の観点から重要度の高い海域」(環境省) (<https://www2.env.go.jp/eiadb/webgis/index.html>)

石狩湾新港洋上風車建設が進行中！ 石狩湾を洋上風車建設の促進区域にするな！



2023 年夏以降、この風景は見られなくなります

石狩湾の美しい景観
が失われる！

騒音・低周波音・超低周
波音により、睡眠障害・
めまい・頭痛など発生

鮭・ニシン・タコなど
の漁業資源は大丈夫？



合同会社グリーンパワー石狩は、2022年5月より、石狩湾新港の北防波堤北側海域で洋上風力発電[8,000kW・14基(出力10万kWに調整)]の建設に着手。2023年夏に組立工事が完了、試運転が始まります。石狩市は、石狩湾を洋上風車建設の促進区域(国が指定)にするため奔走中です。すでに、石狩湾一般海域では合計9社が、それぞれ8,000~20,000kWの巨大風車を**数十~数百基**建設する計画を進めています。

巨大洋上風車はいらない！私たちは石狩湾新港と石狩湾一般 海域での洋上風力発電事業に反対し中止を求めます。

- **健康影響が大いに懸念されます。私たちはモルモットではありません！**
石狩湾周辺の人口密集地(石狩市、小樽市、札幌市手稲区・北区 人口40万人超)は、洋上風車の大型化で低周波音等が遠くへ及ぶため、広範囲で影響を受けます。
- **景観が台無し！ 失われる海辺の自然の風景、日本海に沈む夕陽の光景**
札幌テレビ塔の1.5倍高の超巨大風車が林立。海水浴場から海辺の自然景観や夕陽が楽しめなくなります。
- **天然記念物オジロワシのバードストライクはあってはならない！**
自然豊かな湾岸部と海域は多種多様な鳥が生息し、渡り鳥の渡りの経路になっています。既設大型風車に加えて、野鳥・海鳥への影響は必至です。
- **海の自然への影響が心配！**
石狩湾は生物多様性の高い重要な場所。海流や漂砂への影響が海岸の形状、海の生態系へ及ぶ懸念があります。
- **漁業への影響はもっと心配！ サケ、ニシン、シヤコ、カレイ、ホッキは大丈夫？**
工事中に発生する汚泥やくい打ちの騒音、ブレードの回転等に伴う振動などによる海の攪乱が水産資源に与える影響が懸念されます。

石狩湾洋上風車建設反対道民連絡会

● 構成団体：石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会、銭函海岸の自然を守る会、北海道自然保護協会、日本野鳥の会札幌支部/道北支部、what's、風力発電の真実を知る会、札幌大汚染測定連絡会、あすらん、いのち環境ネットワーク、道北の自然と再生エネルギーを考える会、北海道海鳥保存研究会

● 事務局：石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会 代表 安田秀子 <https://windturbine.lbcc-alumni.jp/index.shtml>



石狩市長

北海道知事

今石狩市（北海道）で

何がおきているのか？！



shakotan

ご存知ですか？ 風車のこと

只今、石狩湾新港に14基の200mを超える巨大風車が建設中です。

さらに石狩市は石狩湾沖の海域を洋上風力発電の促進区域に指定されることを目指しています。水面下では9社約1000基の風車が申し込まれています。促進区域に指定されると、事業者が1社に決まり、最大250基、向こう30年間風車は独占的に稼働します。

しかし、それらの風車から作られる電気は石狩市民は使えません。海底送電線により本州へ送られ、大都会の人々が使います。電気代にのせられる再エネ賦課金の支払いは強制的です。

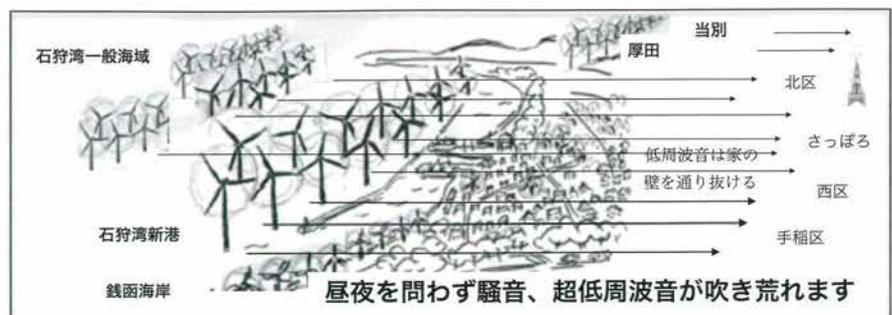
そして、巨大風車から発生する低周波音、電磁波により石狩市民には健康被害（騒音、めまい、頭痛）の影響があります。

また石狩の海は破壊されます。石狩湾はNHK 다큐ウィンが来た！ “生きもの新伝説 ニシン復活”（2022.2.27）に放映された程の独自の生態系があります。

このままでは、石狩市はエネルギー供給植民地にされ、石狩市民にはなんのメリットもありません。

一緒に巨大風車建設中止を石狩市、風車事業者に要請しましょう！！

石狩市主婦 藤田雪子



新港風車の建設中止を求めます。

先進地の欧州では洋上風車の離岸は平均的に岸から35 kmです。中国では10 kmなど。新港風車は岸から1.5 km未満。

巨大風車からは「超」低周波音が…

そのため風車は岸から数10 km 離すのです。これまでも風車の周辺からは低周波によるめまい、吐き気、不眠などの健康上の疾患が報告されていました。しかし、これまで見たことも経験したこともない 200 m 高クラスの巨大風車の羽根（ブレード）の回転からはどんな低周波音が発せられるのでしょうか？ そしてどんな害が？ 実態がわからないままに昼夜を問わず騒音、低周波音が吹き荒れているのでしょうか？！ 先進地の欧州主要国ではそのために巨大風車の離岸を最低限22.2km以上に規制しているのです。石狩湾新港の1.5kmとは市街地の中心部に建つ風車と同じ事です。

石狩湾新港の洋上風車は絶対建設させてはなりません。

超低周波音は波長が長すぎて（ゆっくり回転＝0～20ヘルツ）人間の耳には聞こえません。しかし、聴覚とは別な平衡感覚などの「三半規管」を大きく揺るがし気分レベルや神経の平静を大きく狂わせます。また無音の大きい音圧は「脳」や「心臓」に直接影響すると言われてています。

グリーンパワー石狩（GPI）からは何の説明もないのです。

計画が進んだ平成28年（2016年）から事業者は地域住民へ向けて一度も説明会を開いておりません。その後に発電総出力、風車の数、出力、高さなどの大きな計画変更があったにもかかわらず「コロナで中止」「一部市民に妨害された」などと説明責任から逃げています。

合意形成の歩みもない状態です。

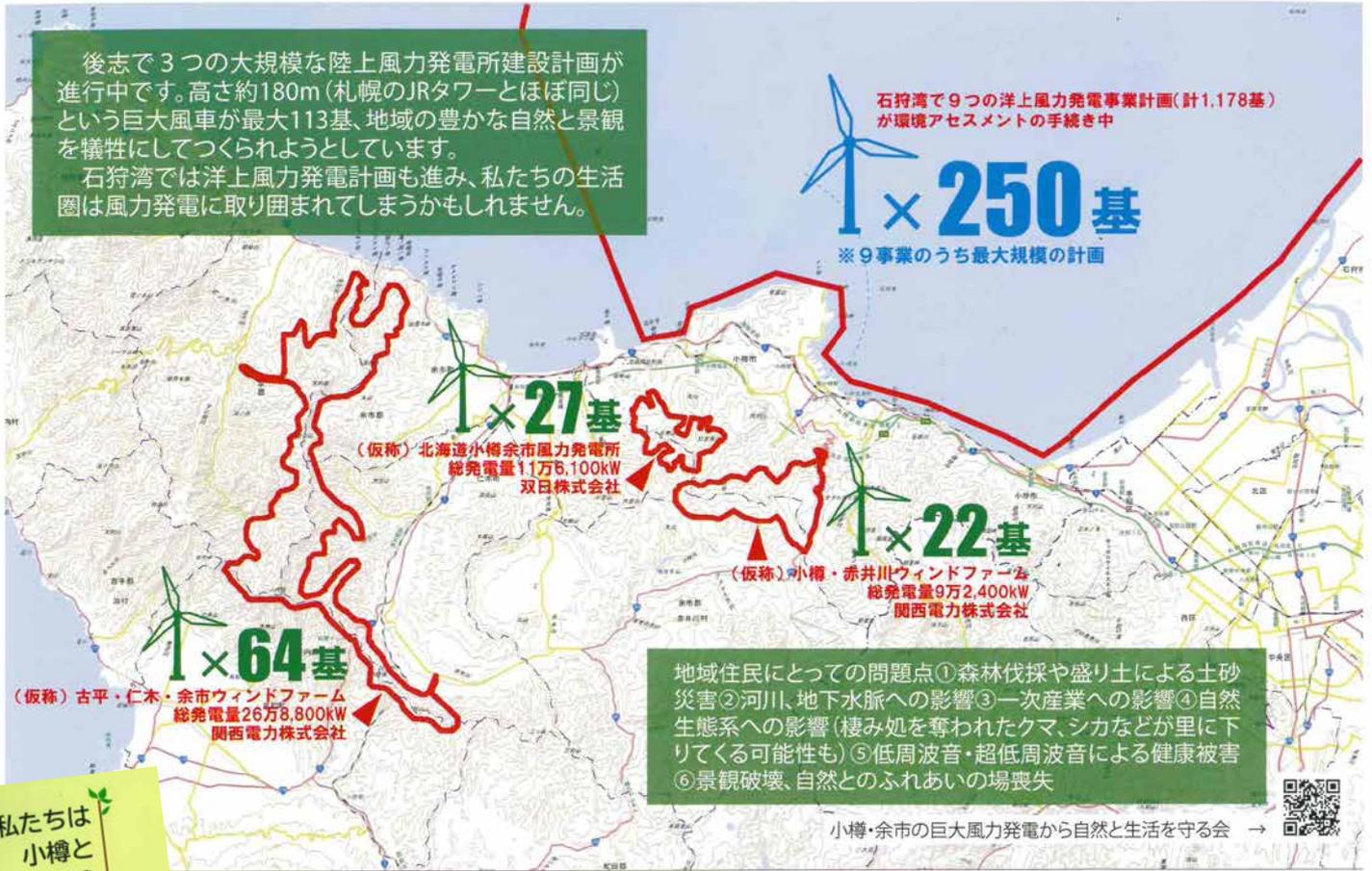
そもそもどんな風車なのか？ 事故や破損の心配は？ 環境汚染は？ 摩擦音・騒音・低周波音の健康被害は？ 船の出入りは？ 環境への影響、魚、鳥、植物は？ 風車はいつまで動くのか？ 住民をバカにした話です。

事業者 合同会社GPI は、岸から1.5 Kmの新港々内に200 m 高の巨大風車14基を計画し、花川地区に送電線を埋め、海工事の基礎杭（くい）を打ち終わっています。全て秘密に勝手にやっていることです。

石狩の地に もう風車はいらない いしかり風力発電（反対）研究所

石狩市花川北2条2丁目142
所長 藤田幸石（ふじたこうすけ） 090-7512-2228

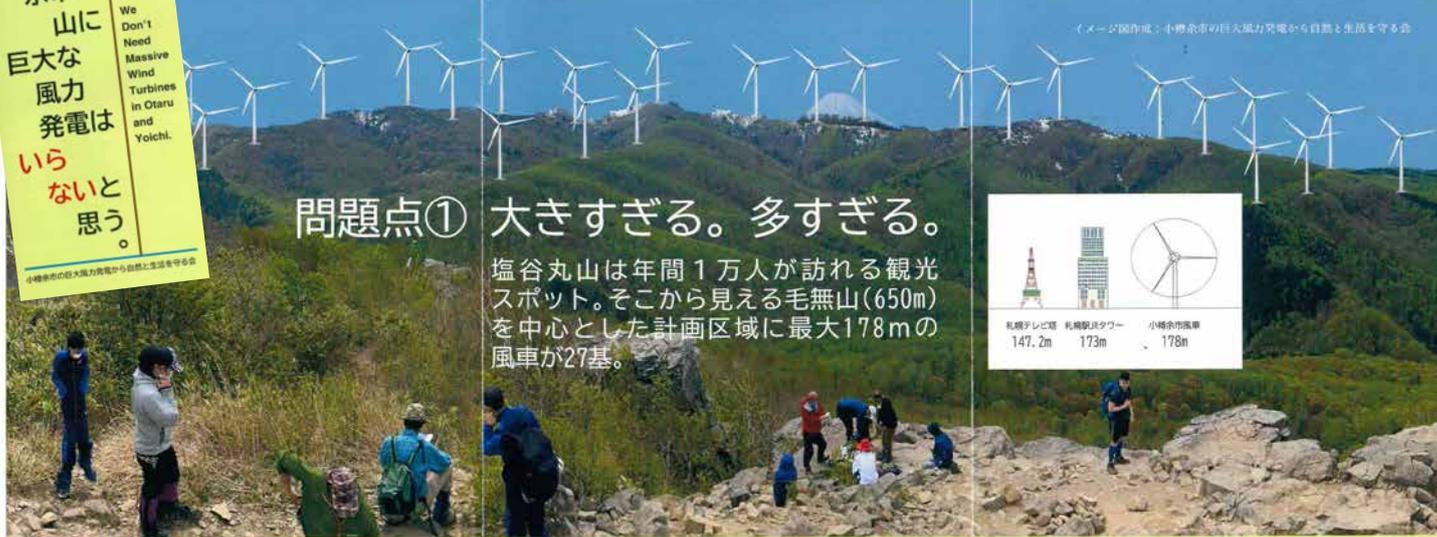
後志で180m×113基の陸上風力発電建設計画が進んでいます。



私たちは小樽と余市の山に巨大な風力発電はいらないと思う。

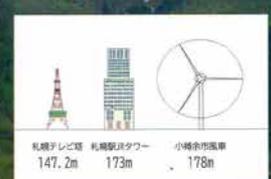
We Don't Need Massive Wind Turbines in Otaru and Yoichi.

小樽余市の巨大風力発電から自然と生活を守る会



問題点① 大きすぎる。多すぎる。

塩谷丸山は年間1万人が訪れる観光スポット。そこから見える毛無山(650m)を中心とした計画区域に最大178mの風車が27基。



国有林の貴重で豊かな自然を守りたい。ふるさとで安心して暮らし続けたい。山と海に恵まれたこの街の風景を守りたい。自然と生活を守り、未来の世代に手渡すために、今。

問題点② 国有林の大規模開発は危険すぎる。

1,067haの事業計画区域は水源涵養保安林でもある国有林。動植物への影響はもちろん、土砂災害の危険個所があり、土砂崩れや川、海の汚濁も心配。

問題点③ 暮らしと近すぎる。

低周波音が健康に影響を与えたり、台風による倒壊事故、落雷による火災の可能性も。



最後に、陳情署名は11月末で締め切りでしたが、**更に多くの請願署名を目指して継続していき**たいと思います。(添付した反対署名用紙をご利用ください)